

週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
(詩編 37 編 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ～10 時
祈 祷 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈禱会
(第3・午後2時)
●夕の祈禱会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 042-742-1593

FAX. 042-742-1393

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

00290-4-80707

3220 2026 年 7 月 26 日

礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 10 主日)

司式者 井 殿 準

奏楽者 飯塚みどり

前 奏	奏 楽 者
招 詞	司 式 者
詩編 149:1b～3	
讃 美 歌	一 同
3 「扉を開きて」	
聖 書	司 式 者
I コリント 12:14～26 (新 P. 316)	
使徒信条 (93-4-A)	一 同
祈 祷	司 式 者
讃 美 歌	一 同
134 「神よ、われをあわれみ」	
説 教	司 式 者
「互いに必要な私たち」	
祈 祷	〃
讃 美 歌	一 同
522 「キリストにはかえられません」	
献 金	〃
主の祈り (93-5-A)	〃
頌 栄	〃
26 「グローリア、グローリア、グローリア」	
祝 祷	司 式 者
答 唱	一 同
40-6 「アーメン」	
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～	
報 告	司 式 者
讃 美 歌	一 同
91 「神の恵みゆたかに受け」	

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備しておりますのでご利用ください。

先週の説教要旨

「今や、恵みの時！」

(II コリント 6:1～13)

コリントの教会では信徒の分裂問題のほか、パウロがコリントを去った後にやって来たユダヤ人キリスト者がパウロの使徒性を否定し、信徒たちに律法遵守を求めたことによって土台が揺らぐような問題が起こっていた。

パウロはこれに対して「神の協力者としてあなたがたに勧めます」と、自分たちこそが「神の協力者」(偽使徒は彼らの方)と述べつつ、「神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません」と語る(1節)。そして、イザヤ書 49 章の言葉(「今は厳しい状況にあるが、後に神は必ず救いの時を迎えさせてくださるが故に、希望をもって歩んで行きなさい」の意の言葉)を引用した上で、さらに一歩も二歩も進んで、「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」と告げる(2節)。「いつか、神の救いがやって来る」のではなく、「今、ここ」に神の恵みがあり、救いがあると告げるのだ。

このように語るパウロは、コリントでは中傷され、大切な教会をガタガタにされただけでなく、4～5 節に記されていたような苦難の連続の日々を経験していた。それでも彼は「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」と断言してやまない。主イエス・キリストがこの世に来られ、十字架の上で我々の罪を贖い、そのお陰で御国の世継ぎとされる恵みを与えられているからだ。そして、パウロは、その恵みを無駄にしないために、自分が純真、寛容、親切、偽りのない愛を示すように努めてきたこと、仲間割れして残念な姿をさらすコリントの信徒たちを広い心で受け入れて続けてきたことを述べつつ、「あなたたちも神に仕える者、神の協力者らしく、広い心で、互いに受け入れ合いなさい」と告げる(13節)。

「主イエス・キリストの出来事が実現した今や、我々には恐れること、思い煩うことは何もない。主イエスの恵みを思えば、どんな苦難も些細なことに思える。今や、恵みの時、今こそ、救いの日」。このように告げるパウロの言葉に真摯に耳を傾けつつ、広い心で、主に仕える者として相応しく、純真、寛容、親切、偽りのない愛をもって、歩んで行こう。